■ HRD FINE ART 展覧会開催のご案内 ■

ゲリー・デ・スメット　個展

Hidden Signs – カクサレタシルシ

会　場： HRDファインアート
（京都市上京区上御霊竪町494-1）
会　期： 2023年 4月1日（土）～ 5月13日（土）
時　間： 木曜日　11:00～15:00
金・土曜日　11:00～19:00
休　廊： 日～水曜日（事前のアポイントにより観覧可能）

【展覧会概要】

HRDファインアートでは、ベルギー人アーティスト、ゲリー・デ・スメットの個展「Hidden Signs - カクサレタシルシ」を4月1日から5月13日までの会期で開催します。ベルギーを拠点に欧州各地で幅広い活動を行っているデ・スメットの、日本では2回目の個展となり、展覧会に合わせて作家も来日します。

ゲリー・デ・スメットは 1961 年アントウェルペン（ベルギー）生まれ。現在はベルギーのヘントを拠点に、絵画や写真、インスタレーションなど幅広い媒体を用いた表現活動を展開しています。その制作は移民、国籍、権力、伝統などをテーマとし、人々のアイデンティティを掘り下げ、その背後にある構造、すなわち「つくられた伝統」を炙り出す試みです。

前回のHRDファインアートでの個展「意図せぬ因果関係」（2021年）では、ポルノ雑誌から切り抜いたヌード写真と古代欧州のルーン文字を多重的に組み合わせることで、イメージの力と欺瞞性を浮き彫りにするような写真作品を展示しましたが、本展は絵画を中心とした展示となります。

デ・スメットの絵画作品の多くは、風景写真をもとにして描かれています。アクリル絵具を用いたダイナミックな筆触とモチーフの抽象化の処理により、シンプルで流動的な絵画空間が生まれます。詩的な雰囲気を湛えたその画面は、伝統的な東洋絵画にも通じるものがあります。しかしながら、デ・スメットはそこに歴史や伝統にまつわる様々な象徴や暗示を仕込むことで、多様な解釈を可能にしています。他のメディアや素材での制作と同様に、絵画作品においても、デ・スメットは「イメージの多面性」を追求しているのです。

本展では、中判のキャンバス作品から小作品、ポストカードサイズの紙の小品まで、幅広い技法やスタイルによって制作された絵画作品を展示します。そこからは、デ・スメットの多彩な創作活動のすべてを貫く強烈な批判精神が透けて見えてきます。

【アーティストからのメッセージ】

私の作品の多くは、神話を求める力学とその悪用をテーマにしている。神話は、自然やその象徴性とも近い関係にある。また、歴史の相対性や互換性、流用がテーマとなることもある。私の創作活動は、「つくられた伝統」を解き明かすための旅と呼べるかもしれない。

時間をかけて私の作品を見ていくと、多様性の中にもある類似性があることに気付くだろう。多くの場合、目に見えるものがすべてではなく、そこには複数の異なる意味が同時に存在しているのだ。

ゲリー・デ・スメット

【展示作品・参考作品】

Parallel Lives
アクリル／キャンバス　50×65cm　2019 年

The Departure
アクリル／キャンバス　50×60cm　2019 年

Wedemaand 1996

アクリル／キャンバス　25.4×25.4cm　1996 年

Bloeimaand 2006

アクリル／キャンバス　25.4×25.4cm　2006 年

【作家略歴】

ゲリー・デ・スメット
Gery De Smet

1961　アントウェルペン（ベルギー）生まれ
1984-1988　KASK（ヘント王立芸術アカデミー）
1988-1993　HISK（アントウェルペン高等美術学院）
現在、ヘント在住

主な個展

1986　「Oorlogsbodems」Le Beau Bruxel（ブリュッセル）
1987　Stedelijk Museum voor Schone Kunsten（オーステンデ）
1990　「Studie der ideologieën」Netwerk Galerij（アールスト）
1991　「Beeldengalerij」アントウェルペン高等美術学院（アントウェルペン）
1992　「Schilderijen」Dorp & Dal（ヘント）
1993　「Kultuurkamer」Galerie Hugo Minnen（アントウェルペン）
CIAP（ハッセルト）
1994　「Je suys celluy au cueur vestu de noir」Watertoren CHK（オランダ、フリッシンゲン）
1996　「AVE」Osterwalder's Art Office（ハンブルク）
「Signaturen」Sint-Lucaspassage（アントウェルペン）
1997　「Kom, volg mij」Van Laere Contemporary Art（アントウェルペン）
「My point of view」The George Rodger Gallery（イギリス、メイドストーン）
1998　「Wijzen van wonen/Ways of living」Osterwalder's Art Office（ハンブルク）
1999　「Toewijding」Campo-Santo（ヘント）
2000　「Lichtmis」Osterwalder's Art Office（ハンブルク）
「Voor uw eigen goed」RUG - Binnentuin Faculteit van Letteren en Wijsbegeerte（ヘント）
2001　「Wijzen van wonen」Galerie Mercator（アントウェルペン）
2003　「Leeuwenhart: de wil van God」MDLダインゼ・エン・デ・レイエストレーク美術館（ダインゼ）
2004　「Kleine landeigendom」Zwart Huis（クノッケ）
「Mokum en wijde omgeving」Steendrukkerij Amsterdam（アムステルダム）
2007　「Slapende cellen/Sleeping cells」Steendrukkerij Amsterdam（アムステルダム）
2009　「Today all circuits are closed」Steendrukkerij Amsterdam（アムステルダム）
2010　「See something? Say something!」アメリカン大学カッツェンアーツセンター（ワシントンDC）
2011　「See something? Say something!」現代美術館アルトエターシュ（ウラジオストク）
2013　「Paardenkracht」PAK（ヒステル）
2015　「De stand der zonnen」Villa de Olmen（ウィーゼ）

2016 「Finish a start!」The Black Wall（ブリュッセル）
「Offerfeest」Emergent（フールネ）
2017 「Avonden in Avondland」Bruthaus（ワレヘム）
2021 「Causality Unintended」HRDファインアート（京都）

主なグループ展

1997 「Reality revisited - De Herinnering als verlangen」Sala Montcada, Fundacio la Caixa（バルセロナ）
「Collection II」Osterwalders Art Office（ハンブルク）
1998 「Vlaanderen - Moskou」Cultureel Centrum Berchem（アントウェルペン）
2000 「Ieder z'n voetbal. Het voetbal in de beeldende kunst 1900-2000」Kunsthal Rotterdam（ロッテルダム）
「Devotie」W139（アムステルダム）
「Tremendum et fascinosum. Representaties van extreem-rechts (1980-2000)」Cultureel Centrum Berchem（アントウェルペン）
2001 「Het versluierd beeld」Begijnhof（ハッセルト）
「Painting - Show」M&M Gallery（ボルネム）
「Belgisch ATELIER Belge」Passage 44（ブリュッセル）
2002 「Summer in the city」Osterwalders Art Office（ハンブルク）
「De hofvijver in poëzie en beeld」Brediushuis（ハーグ）
2004 「Tong 2」Tongerloohuys（オランダ、ローゼンダール）
「Memory Sticks」Galerie Reuten（アムステルダム）
2005 「Emilie Fresco」Klooster（メヘレン）
2006 「Spotlights」Cultureel Centrum Hasselt（ハッセルト）
「In kaart gebracht」Stedelijk Museum（アールスト）
「Stadsgezichten」Erfgoedcentrum Lamot（メヘレン）
2007 「Ver van Eden/Loin de l'Eden」Hondschoote City Hall（フランス、オンショオット）／Vinkem Church（ベオーヴォールデ）
「By the way」Tongerlohuys（ローゼンダール）
2008 「Onthaasting, About Slow Worlds and Spare Time」アメリカン大学カッツェンアーツセンター（ワシントンDC）
「Poëziezomer」（ワトー）
「Vision in Motion/Motion in Vision」Verbeke Foundation（ケムゼーケ）
「Over voetbal」Herman Teirlinckhuis（ベールステル）
2009 「Het zelfde en het Andere - Humanisme stilstaand verbeeld」Zebrastraat（ヘント）
「Als stenen spreken」Diamantmuseum（アントウェルペン）
「Fading」Museum van Elsene（ブリュッセル）
2010 「Koers」Herman Teirlinckhuis（ベールステル）
2011 「Gevaarlijk Jong」Museum Guislain（ヘント）
「Flemish Artists」Flanders House, The New York Times Building（ニューヨーク）
「Nietsvermoedend in het park」Pocketroom（アントウェルペン）

「La part des Anges」Villa de Olmen', ruimte voor actuele kunst（ウィーゼ）
2012 「Verzorgers uit!」Herman Teirlinckhuis（ベールセ）
2013 「5th Moscow Biennale of Contemporary Art Special Project」ロシア国立現代史博物館（モスクワ）
「350 jaar academie Antwerpen」MAS（アントウェルペン）
「Oorlog & trauma」Museum Guislain（ヘント）
2014 「Biënnale van Poznan」（ポーランド、ポズナン）
「Stille kracht」Warande（トゥルンハウト）
2015 「Praetoria」Praetoria」（アントウェルペン）
2016 「Buiten de context」Kasteel Cortewalle（ベフェレン）
「Land van Belofte」Praetoria（アントウェルペン）
「Biënnale van Poznan」Muzeum Narodowe w Poznaniu（ポーランド、ポズナン）
2017 「Kathmandu Triennale」（ネパール、カトマンズ）
「Camouflaged Pearls」Bruthaus（ワレヘム）
「Between earth and heaven」PAK（ブルッヘ）
2018 「Verknipt」Warp（シントニクラース）
「European Capital of Culture」Saint James Cavalier（マルタ、バレッタ）
「Manifesta」Global Garden（パレルモ）
2019 「Il potere sta nella sua vulnerabilità, Asilo」MACRO Museum（ローマ）
「Camouflaged Pearls II」Bruthaus（ワレヘム）
2020 「Salon des Editions」Museum D-Honft-D-Haenens（ドゥールレ）
「PRIVAAT - what's the meaning of private?」Bruthaus Gallery（ワレヘム）
2021 「A Butterfly's Scream」PAK（ベールネム）
「Life begins at fifty but it ends at forty」Municipal Gallery（ポーランド、ビドゴシュチ）
「Slezkin / De Smet - Life begins at fifty, although it ends at forty」Galeria Miejska bwa w Bydgoszczy（ビドゴシュチ）
「Art Ghent」SMAK（ヘント）
「Buy Art」Kunsthal（ヘント）
2022 「Every Collection Hides Another Collection」Provinciehuis（アントウェルペン）
「Art Beats」Belfius Collection（ブリュッセル）

主な受賞

1992 「Young Belgian Painter」（最高賞：Emile Langui Prize）

主な作品収蔵

現代美術館アルトエターシュ（ロシア、ウラジオストク）
MDLダインゼ・エン・デ・レイエストレーク美術館（ダインゼ）
M HKAアントウェルペン現代美術館（アントウェルペン）
Mu.ZEE（オーステンデ）

【感染対策について】

HRD ファインアートでは、展示プログラムの再開にあたり、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止対応として、以下の措置を導入・実施いたします。

① オープニングレセプションの中止

従来、展覧会初日にアーティストを囲んでオープニングレセプションを開催してきましたが、当面の間これをすべて中止します。

② 検温・不織布マスク着用・手指消毒の徹底

ご来場の方は、事前（当日）に検温をお願いいたします（会場で非接触式体温計による検温をお願いする場合もあります）。37.5℃以上の熱のある方や咳等の呼吸器症状のある方はご来場をお断りします。また、来場時は不織布マスクまたは同等以上の感染防止性能を持つマスクの着用をお願いします（ウレタンマスク、布マスク、ガーゼマスクでご来場の方には未使用の不織布マスクをお渡ししますので、そちらを着用してください）。健康上の理由等によりマスクを着用することができない場合は、事前にお申し出ください。また、ギャラリー入口に設置する手指消毒用のアルコールでの手指消毒をお願いします。.

③ 来場人数制限の実施

ギャラリー内の混雑を避けるため、来場人数の制限を設け、ギャラリーへの入場をお待ちいただく場合があります。

④ 臨時休業・完全アポイント制への移行の可能性

新型コロナウイルスの感染拡大を見極め、状況に応じてギャラリーを臨時に休業、または事前アポイントによる完全予約制とさせていただく可能性もあります。こうした場合は、ギャラリーのウェブサイト www.hrdfineart.com や SNS のチャンネルを通じて、なるべく早い段階で告知を行います。

＊＊＊

お問い合わせ：HRD FINE ART
（エイチアールディー・ファインアート）

住所：〒602-0896 京都市上京区上御霊竪町494-1
電話：090-9015-6087（担当：原田）
ウェブ：http://www.hrdfineart.com
E メール info@hrdfineart.com